

知っところ!!!

新春号

No.137/2024/ Spring

森林組合つうしん



森だより
(137)

写真：桜と日吉ダム

も	通常総代会の報告 P 1	事業2課
	新役員の紹介 P 2	続・広葉樹の有効活用 他 . . P 5
く	代表理事組合長就任あいさつ . P 3	店舗（森の道具屋）
	事業1課	今年のイベントスケジュール 他 . . . P 6
じ	森林整備事業計画 他 P 4	市況・編集者の独り言 . . . P 7

発行責任 日吉町森林組合

〒629-0341 京都府南丹市日吉町殿田尾崎8-1

E-mail h-sinrin@fancy.ocn.ne.jp

Tel 0771-72-0017

Fax 0771-72-1375

森林組合WEBサイト

日吉町森林組合



通常総代会の報告

去る、3月23日(土)午後に、南丹市日吉町生涯学習センターをお借りして「令和5年度(第57事業年度)通常総代会」を開催いたしました。

当日は、足元が悪い中にも拘わらず40名の総代の皆様に御出席いただき、これに事前に届出いただいた100名の書面議決と6名の委任状を合わせると146名となり、総代会成立要件である総代定数(205名)の過半数を超え、総代会は成立となりました。

来賓として京都府南丹広域振興局・局長の古澤 明様、南丹市・市長の西村良平様(代理)、南丹市・市議会議長の谷尻昌史様、京都府森林組合連合会・代表理事会長の青合幹夫様(代理)の4名の方々に御臨席を賜りました。

13時30分に湯浅組合長の挨拶をもって総代会をスタートし、来賓の方々から御祝辞を頂いた後、殿田地区総代の吉田尋^{ひろこ}子様に議長をお願いして、議案の審議に入りました。

令和5年度は、自宅裏の危険木処理作業や公共事業などの請負事業の取扱高については、当初計画に達することができませんでした。しかし事業取扱高の多くを占める受託事業では、間伐面積及び作業道開設延長が当初計画を上回ることができ、また、購買事業においても、鳥獣被害対策支援事業の資材納品及び施設設置業務の売上額が大きく伸びたこともあり、森林整備部門の取扱高が当初計画の107%という結果となりました。

その結果として、事業総取扱高が4億6,755万円で税引前当期純利益は422万円となりました。したがって、組合員の皆様へ5%の出資配当を提案させていただきました。これらを含めた令和5年度事業報告及びそれに関連する内容、令和6年度の事業計画及び関連項目など全11議案を提案させていただき、全て原案通り可決承認いただきました。詳細につきましては先に送付しております「令和5年度総代会議案書」をご覧ください。

お忙しい中をご出席いただきました総代の皆様には、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。また、全ての組合員の皆様に、今後とも変わらぬご指導やご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。通常総代会の報告とさせていただきます。



新役員の紹介

令和5年度（第57事業年度）通常総代会を持ちまして、役員の任期が満了いたしました。総代会議案の第9号議案にもありますように、役員の選任につきまして総代会において可決承認いただき、総代会終了後の臨時理事会において、令和6年度から3年間における新たな執行体制が決定いたしました。

ここに改めて、新規役員を紹介させていただきます。

まず始めに、理事の紹介です。



理	事：松本 豊（世木地区）
理	事：湯浅莞爾（世木地区）
理	事：勝田恵美子（胡麻郷地区）
理	事：廣瀬健一（五ヶ荘地区）
理	事：松尾邦夫（胡麻郷地区）
理	事：芦田俊孝（胡麻郷地区）
理	事：湯浅 勲（世木地区）
理	事：山形茂登雄（五ヶ荘地区）
理	事：吉田正彦（世木地区）
理	事：湯浅俊治（世木地区）
理	事：塩貝文明（胡麻郷地区）
理	事：森 正彦（五ヶ荘地区）
理	事：塩貝 隆（胡麻郷地区）
理	事：村山好明（五ヶ荘地区）
理	事：香川和輝（五ヶ荘地区）

続いて監事です。

監	事：吉田繁治（胡麻郷地区）
監	事：井上克己（五ヶ荘地区）
監	事：田中紀文（世木地区）

（理事監事ともに順位順）

以上理事15名、監事3名となります。

代表理事組合長就任のあいさつ

いつも大変お世話になっております。先の「令和5年度(第57回)通常総代会」で承認された理事の互選で、世木地区理事の不肖「湯浅勲」が、前回に引き続いて代表理事組合長に選任されました。もとより浅学非才でその器ではございませんが、これから3年間、日吉町森林組合のカジ取りの任に当たらせていただきますので、よろしくご指導を賜りたいと存じます。尚、組合長を補佐いただく理事副組合長には胡麻郷地区理事の塩貝文明氏が、代表監事には同じく胡麻郷地区監事の吉田繁治氏がそれぞれ就任されました。任期は代表理事と同じ令和9年の3月までとなっておりますので、よろしくご指導賜れたら幸甚に存じます。



さて、今後3年間の我々の任務としては、引き続き間伐を推進してより健全な森林へ導くこと。また成長して胸高径が60cmを超えた木は、択伐して樹冠が広く空く場所には樹下植栽をして世代交代を促し始める時期が近づいています。平成8年に日吉の森復活作戦を開始してから概ね30年が経ち、早い林は3回の間伐を実施したので、そろそろ収穫期に差し掛かりつつあるのです。そして、そうした木材をより有利に販売するために、良材と並材を峻別して、良材については製材所等と提携してサプライチェーンを構築する予定をしています。

それから、組合内部の業務執行体制についてですが、ベテラン職員は経験も豊富となり、プランニング能力も、また伐木・造材・運搬などの技術も概ね身につけています。しかし現場の采配にはまだかなりの改善余地があり、工程管理と情報共有能力を高めないといけません。そのためには、皆が「俺が、俺が」の意識から脱皮して、お互いに慮りながら感謝して忌憚なく議論しあえるようにマインドチェンジができるかどうか、このあたりがカギになるのではないかと考えています。そのように皆を導いて行けるかどうか、ハードルは高いけれどもやりがいのある仕事でもあります。そうして全員のベクトルが一致した時に、「働いていて楽しい」「日吉町森林組合には安心して仕事が頼める」と、このようになって善循環の輪が回り始まるのだと思っています。

これからの3年間で、そういう森林組合へ一歩でも二歩でも近づけるように頑張る所存ですので、よろしくご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。甚だ簡単ですが、就任のあいさつとさせていただきます。



森林整備事業計画について

3/23(土)の第 57 回通常総代会で承認いただいた、令和 6 年度の事業計画のうち、森林組合の主要事業である森林整備事業計画量は、間伐面積 160ha、森林作業道開設延長 12,000m、木材生産量 16,500 m³としております。森林整備計画対象地域は前号の「知っとこ!!森林組合つうしん (136 号新春)」に掲載しておりますので、ご確認いただけましたらと存じます。4 月以降は、四ツ谷地区と天若地区へと事業を進め、その後保野田地区、田原地区へと進む予定をしておりますので、よろしくお願い申し上げます。

補助金返還及び誤伐にご注意ください!!

森林組合で行っている森林整備のほとんどは、国からの補助制度を活用して実施しております。この補助制度を活用して整備した森林については、実施した翌年から起算して 5 年間は皆伐（立木を全て伐ってしまう）をすることが出来ません。もし皆伐をしてしまった場合は、所有者の方に補助金の返還義務が生じます。

また、最近では「立木を買い上げた伐採業者が境界を間違え、隣接する違う所有者の立木を無断伐採してしまった」という事例が日吉町内でも発生していますし、他町での事例もよく耳にします。これは、販売する所有者が売買するまでに隣接者と境界確認を行わなかったことが主な原因だとおもわれます。皆伐や間伐に関わらず、伐採対象地の所有者の方は必ず隣接する所有者との境界を両者立会のもと行うようにしていただきたいと思います。そうすることで、余計なトラブルも避けられますし、次回以降何かしらの施業を実施する場合でも、トラブルになることはないかと思えます。森林組合では、ご依頼があれば境界確定のサポート（杭の提供や第 3 者としての立会）をさせていただきますので、いつでもご相談ください。



被害木の保険金支払い遅延のお詫び

昨年 1 月 24 日～28 日にかけて降った大雪により、林内に倒木や折損などの被害が発生しました。森林保険にご加入いただいている森林については、森林組合で被害状況の調査、保険金の請求手続きを進めてきました。しかしながら、今年 3 月末時点においても保険金が支払われていない状況です。現在手続きの窓口である京都府森林組合連合会と森林保険センターに、速やかに支払い手続きを進めるよう連絡をしており、5 月中旬には全件ではないものの支払いが行われるとの回答を得ています。対象となる皆様には大変ご迷惑をお掛けしておりますが、今しばらくお待ちいただきますようお願い申し上げます。

事業 2 課

続・広葉樹の有効活用に挑戦

前号でお知らせしたように、スギ・ヒノキの人工林だけでなくナラやクヌギ、アベマキといった広葉樹林も整備を積極的に進めており、そこから搬出する広葉樹材を少しでも高く販売すべく、売り先を模索しています。

前号では、約 300 m³程の広葉樹材の中から製材用として出荷出来たものは 8 m³程だったとお伝えしましたが、その 8 m³の広葉樹材について製材所で製材をし、製材された材を大手家具メーカーや内装材メーカーに見ていただき、製品としての質がどうかという意見を伺う機会がありました。製材した材は、カシノナガキクイムシによる影響で小さな穴が開いていたり、材の色が悪くなっていたりと欠点が多く、内装材メーカーからは「これでは使えない」との厳しい意見をもらいました。しかし、大手家具メーカーからは「こういった被害があるという事が一つのストーリーとなり、それを消費者に向けて発信することで材に付加価値を付けられるので、我々はこういった材でも問題ないです」との意見をいただきました。少し明るい光が見えたような気がします。

また、広葉樹材を使って家具や小物を制作しておられる工芸作家の方や、湯葉を作る際の道具にホオノキが欲しいという湯葉会社の方などからお声掛けをいただき、少量ながらもチップや薪より高値でお買い上げいただける販売先を増やせつつあります。

引き続き少しでも高く売れるよう販売先の開拓など努力してまいります。



(写真：赤丸の小さな穴が虫による被害)



(写真：虫などの被害がない綺麗な材)

京都府立林業大学校生のインターンシップ受入れ



インターンシップ研修として、京都府立林業大学校の1年生の奥田君(左写真)と鈴木君を2月26日(月)～3月1日(金)までの1週間受け入れました。2人とも現場の作業体験を中心に、プランナーの調査にも同行いただき、林業現場を実体験していただきました。

2年生でさらに知識を深め、森林林業関係の仕事に就職してもらえることを願っています。

森の道具屋

年間イベントスケジュールのお知らせ

FOREST TOUL SHOP「森の道具屋」の今年度のイベントスケジュールをお知らせします。

4月21日(土)・22日(日)：春の特別セール

→これまでのお客様感謝祭とは違い、店舗内のみで開催する「特別セール」です。
→目玉商品を大特価にて準備中。



8月3日(土)・4日(日)：夏の大整備会

→例年同様に機械整備会と各メーカーを集めての大感謝祭を企画中です。ご期待下さい。大整備会恒例の「無料目立て・点検・整備」も実施予定です！！

10月12日(土)・13日(日)：秋の特別セール

→内容はまだ企画段階ですが、皆様に喜んでいただくべく担当者が企画を練りに練っておりますので、お楽しみに。



12月14日(土)：目立て講習会

→昨年も参加者から大変好評をいただいた「目立て講習会」を今年も実施します。日程は上記の通りです。今年も現場で日々伐倒作業に従事しているプロのチェーンソーマンが目立て講習をさせていただきます。参加人数に限りがございますので、時期が近づきましたらお早めにお申込みください。

春の特別セールのご案内

4月20日(土)・21日(日)の2日間で「特別セール」を開催します。その内容は・・・

○**衝撃**の店内全商品 **15%OFF!!**

○大人気商品のり網が通常 **1,450円/枚**のところ、**なんと20%OFF**の **1,160円/枚**

→この値段は破格です！！（ただし、他の割引と併用は不可）

○草刈初心者の方には、**草刈機と必要用品まとめてセット割**がお得。



上記以外にも目玉商品を大大大特価で多数取り揃え、皆様のご来店をお待ちしております。農作業や草刈り、庭木のお手入れなど本格的に忙しくなる前に、必要な商品をこの機会にお安くお買い求めください。

木材市況

(資料提供・北桑木材センター R6.3.26)

スギ	中目	4m×18~24 cm	¥10,500~11,000	スギ材についてはお客様が多く、引き合いが強かったため高値でした。 ヒノキの良材は高値が付いたが、2番木、3番木については少し値下がり気味。
	〃	4m×24~30 cm	¥18,000~20,000	
	柱	3m×16~20 cm	¥15,000~18,000	
	〃	6m×16~20 cm	¥20,000~22,000	
	元木・良材	4m×24 cm上	¥35,000~40,000	
ヒノキ	中目	4m×18~24 cm	¥17,000~20,000	
	〃	4m×24~30 cm	¥22,000~24,000	
	柱	3m×16~20 cm	¥13,000~15,000	
	〃	6m×16~20 cm	¥22,000~24,000	
	土台	4m×14~16 cm	¥11,000~12,000	

編 集 者 の 独 り 言

今年は、東日本や西日本で桜の開花が平年並みか平年より少し遅れたようで、満開の桜が新入生を出迎えてくれた地域も多かったのではないのでしょうか。

ところで皆さん「梅、桜、紫陽花、すすき、銀杏、いろはかえで」の6種類の植物を言われると、何が思いつきますか。

これは気象庁の生物季節観測として観測されている植物6種類です。この生物季節観測ですが、2020年までは植物34種類、動物23種類が観測対象となっていました。2021年1月以降植物6種類のみ大幅縮小されました。

「へえ〜」、「それで?」となるかもしれませんが、最近購読した本「今日、誰のために生きる?」(ひすいこたろう×SHOGEN 著)の中でこんな一節がありました。『京都に年中鈴虫が鳴いている鈴虫寺というお寺がありますが、海外では「騒音寺(ノイズ寺)」と言われていています。特に欧米の方々には虫の音はノイズとして聞こえるらしく、やかましくて入れないくらいなんだそうです。』と。

また、「虫の鳴き声や葉がすれる音をメロディーのように美しく感じられるのは、日本人とポリネシア人だけだと研究でもわかっています」とも書かれていました。日本人は昔から自然と共存共栄して生きてきたとよく言われます。生物季節観測として公に発表される種類は少なくなりましたし、近所の田んぼや畑がマンションや住宅に次々変わっていきませんが、それでも身近な自然で季節を感じる豊かな心はなくさず、新入生のようにワクワクしながら今年度も頑張っていきたいと思います。

編集者：小林